

人見楠郎第二代理事長の お言葉



故人見楠郎

春に颯爽と華々しく

—— 家政系大学院・短期大学部専攻科 オープン ——
望秀海浜学寮・サロンプレリユード

学園創立65周年3大記念事業が予定通り完了した。第1は、短期大学部の5学科すべてに専攻科が付設されたこと。入学定員は英文・初教が各20名、国文・家政・食物は各10名。これによって専門領域の研究を深め、実力豊かな社会人を育成することがねらいで、全国でも数少ない3年制の短大となる。以前に短大を卒業した先輩も入ることができるから、新しい生涯教育の一環として注目されている。

第2は、これまで文学研究科のみであった大学院に、新たに家政学研究科が開設された。審査は厳重を極めたが、家政学修士号が授与される食物栄養学専攻（定員10名）と、学術修士か家政学修士号を授与される生活造形学専攻（定員10名）の設置が認可され、日本文学、英米文学と4つの専攻科が並ぶことになる。

前者は食品化学、食品加工保蔵学、栄養化学、栄養生理学の4講座と1つの特別講義を、後者は住居造形学、環境計画学、造形材料学、洗浄科学、被服加工学、被服造形学、生活造形史の講座を35名の教授陣が担当する。豊かな教授陣、独特な研究課程、優秀な施設設備は極めて高く評価されている。

このような専門研究コースの充実に合わせて、350単位分の一般教育科目と150単位分の外国語科目の中から、学生各自の進路と能力に適応したものを自由に選択できる制度を併用して、女性文化の創造に役立てたいと大学当局の夢は大きい。

第3は房州海岸の望秀学寮が3月25日に竣工。眼前に伊豆箱根の山と海が展開する東明学林と同じく300名収容。夏は家族と共に泊まれる。竣工式には、理事長はじめ、理事、評議員、学生代表など、学園の代表者と、完成までご尽力頂いた地元関係、設計・建築関係の方々、約100名が参列し、喜びの日を共にした。地上3階建てのこの学寮には、ラウ

ンジやマリンプラザなどゆとりのある空間、近海の魚を目のあたりにできる大水槽、階段毎に色分けされた宿泊棟など、ここで研修を行なう者のために夢のある細やかな配慮がなされている。なお当日は、教職員による1泊見学会も催され、「秀（たか）き理想を望みつつ励む」ために準備された新しい教育施設を前に、意欲的な視察が行なわれた。

望秀海浜学寮で寝食を共にする師弟のために時を告げる鐘。聖母子像のレリーフのあるギリシア製のこの鐘には、大（57kg）、中（41kg）、小（21kg）それぞれに、ANAZHTHΣΙΣ THE TEAEIOTHTAE（より完全なものを目指して進もう）・SHOWA WOMENS UNIVERSITY・IN HONOR OF OUR NEW STARTの文字が刻まれている。

また、昨年夏から拡張工事が進められていた人見記念講堂レストラン、サロン・プレリュードが完成し、3月19日、和やかに竣工レセプションが催された。モノトーンで統一された空間は、美しい花々で飾られ、音楽事務所、報道、建築関係等、百数十名の参会者を得て新しいスタートをきった。コーヒーと軽食のほか、クラス会などもできる。音楽家の写真展示、1世紀前のドイツ製オルゴールの音色も楽しめる。

（『昭和教育的源流考』—大学の巻— 昭和62年5月8日発行 より転載）